たちですよ。女房にするならあの辺の女というくらいです。」何人ものインドネシア人は私に実際こういったものだ。このほか，ブカロンガン地方の女性はイステリ・クンチャナ（黄金の妻），ケドゥーの女性は，ブディウタミ（敏感で貞淑な），マディウン地方の女性はマダ・カンギアン（微風にゆらぐ焔）などいろいろな別称が与えられているが，いずれもインドネシア人にとっては理想の女性のタイプと考えられているようだ。彼女たちはいずれも蓮の花から生れたその「原始女性」の性質を負うのにふさわしい存在なのである。

（註一）　ジャワはインド文化によって開花の光を与えられたため，ヒンズーの神の名がひろまっている。

（註二）　東部ジャワにあるジャワの最高峰の火山（高さ３６７６ｍ）

（註三）　東部ジャワのブロモ火山の火口原の砂原

交　通　事　故

有　末　武　夫

〝１姫，２虎，３ダンプ〟という言葉がある。これは女子大学生にはたいへん失礼ではあるが，車を運転する際，よく注意しなければならない相手は，この順序だという。ご婦人方の運転する車は，どうしてもアクセルやブレーキの踏み方や，ハンドルの切り方が一呼吸遅れがちで，また思わぬところで急停車する。このため，前にご婦人が運転する車がいる時には十二分に気をつけよということらしい。しかし本当はご婦人そのものに気をとられて，運転を誤らないようにとの，男性への忠告かも知れない。酔っぱらい運転は取り締りが厳しくなり，少なくはなったが，新聞の交通事故の記事には，まだまだ酔っぱらい運転が後をたたない。

さて，第３のダンプカーであるが，これは文字通り走る凶器である。これと衝突したらいかに高級乗用車といえども，ひとたまりもない。そしてダンプの運転手は無謀だとよくいわれる。しかしダンプ事故の陰には，日本のもつ社会経済のひずみが，若い運転手にしわよせされている，といったら少し大げさだろうか。

近年の砂利採取業は，東京・神奈川・埼玉など大都市近郊の河原の砂利を取り尽くし，山梨・長野・福島にその中心を移している。砂利採取業者は，輸送費を低くおさえることが唯一の儲け口である。このため安く働かせることのできる〝流れ者〟や〝交通事故の前科者〟を雇い，しかも運転手が独立して運搬業をしているという形をとらせているという。これは事故を起しても採取業者は無関係で，運搬人は損害賠償の能力がなく，被害者が泣き寝入りになるための仕組みともみられる。運転手は車も所有せず，車代の積立てとして賃金の中から多額の金を差引かれ，生活に追われて，

無理な労働を強制されている。予定の年期を勤めて，トラックを入手し，一本立ちの運搬人になれる人は九牛の一毛にすぎない。

このようにして砂利採取業者が儲けているかというと，そうではない。採取業者は生コン業者や，下請けの土建業者から砂利納入の価格や期限をやかましくいわれ，それに甘んじなければ，期限の長い手形で支払われ，ひいては仕事がもらえなくなる。そして生コン業者や下請けの土建屋は，大手のコンクリートメーカーや，大手の建設会社にしぼり取られているのが現状である。

道路・橋梁・トンネル・港湾などの大土木工事や，ダムや高層ビルなどの大建設事業が活発に行なわれている今日，しかも公共投資の比重がとくに大きいとき，大手の建設会社やメーカーからの政治献金が，いかなる性質のもので，その金はいかにして作られたかを考える必要があろう。政治家の福々しい顔や，豪華な生活は，ダンプの運転手の首をかけての労働と，ダンプの危険にさらされている国民の生命との上に，大あぐらをかいているのではないと，誰が断言できるであろうか。

岡崎セツ子氏の近況

ますます研究に精を出され，目のまわるような忙しさもなんのその，元気に御活躍中です。今年度のお茶の水女子大学人文科学記要２１巻には，志摩半島の地形についてその地形区分，更には地形運動の形式等について考察を発表なさり，御専門分野（主に地形）にかけられる熱情にはひとかたならぬものが感じられます。

「お茶の水地理」残部表

1	号	昭和３４年	¥１５０	１１部	7	号	昭和４０年	¥２００	１９部
2・3	号	昭和３６年	—	0	8	号	昭和４１年	¥２００	２８部
4	号	昭和３７年	¥１５０	１５部	9	号	昭和４２年	¥２２０	１５部
5	号	昭和３８年	¥１８０	１３部					
6	号	昭和３９年	¥１８０	９部	御希望の方はお申込み下さい。				